



タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3527		
科目名	インテリジェンス論1 (特論)		
担当教員	小谷 賢		
対象学年	3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	水2		
講義室	1307	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門・危機管理		
科目の位置付け (開発能力)	<p>■DPコード：学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP7-C [他者理解・倫理観・公共心] 人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 DP1-E [学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し、利用することができる。 DP4-I [理解力・分析力] 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。</p> <p>■CRコード：学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック (CR) との関連 C1 倫理的思考・社会認識 (10%) E1 学識と専門技能 (70%) I1 理解・分析と読解 (20%)</p>		
教員の実務経験	<p>警察庁採用I種 (現総合職) 職員として34年余の公務員としての実務経験を有するが、その中で、インテリジェンスの主要分野であるヒューミント、シギント、イミントの全てを経験し我が国では極めて稀な実務経験を有しています。秘密保持義務があるので体験や知識を直截に教授することは出来ませんが、実務経験を基礎として、公刊資料を活用して、真のインテリジェンスについて講義を行います。(第1～15回。特に第1, 2, 3, 12回)</p>		
成績ターゲット区分	<p>■成績ターゲット：能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期</p>		
科目概要・キーワード	<p>現代インテリジェンスは、国家の安全保障に係わる活動ですが、方法論の視点からは、主として次の四つの分野で構成されています。即ち、ヒューミント (人が人を対象)、シギント (電話やインターネット通信或いはレーダ信号など信号情報を対象)、イミント (画像衛星、レーダ衛星、航空写真などの画像情報)、マシント (対象物から発出される音波、赤外線、放射線、化学物質などを計測する諜報活動) です。また、組織論の視点からは、フォーリン・インテリジェンス (対外諜報)、ミリタリー・インテリジェンス (軍事諜報) 及びセキュリティ・サービスの三つに大別されます。これら現代インテリジェンスは20世紀に発展したものであり、20世紀における世界の対立構造に大きく影響を受けています。</p> <p>そこで、本授業では、20世紀の世界の対立構造との関連において、主として我が国に関連する様々なインテリジェンス事象を取り上げて、ヒューミント、シギント、セキュリティ・サービス等のインテリジェンス諸活動を具体的且つ理論的に考察します。インテリジェンスに関する知識を身に付けるとともに、インテリジェンス的意識、態度を養うことを目標とします。</p> <p>授業形態は講義形式により行います。なお、授業を補完・代替するためオンライン授業 (オンデマンド型) を取り入れます。</p> <p>■キーワード：インテリジェンス、ヒューミント、シギント</p>		

<p>授業の趣旨</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 副題 20世紀のインテリジェンス事象を世界の対立構造の視点から理解する。</li> <li>■ 授業の目的 安全保障関連業務の従事者にとって必須の真のインテリジェンスの姿を理解することにより、インテリジェンスの考え方を追究し、インテリジェンスの観点から世界の事象を理解し説明する能力を身に付けることを目的とします。</li> <li>■ 授業のポイント インテリジェンスは秘密保持義務が極めて高い活動分野であるため、「知っている人は語らない。良く話す人は実は良く知らない人」という世界です。その上、日本ではインテリジェンス組織が極めて弱小であるため、真のインテリジェンスを知る人も少なく、世間には似て非なるインテリジェンス本が溢れています。本授業では、インテリジェンス諸活動を20世紀の世界の対立構造との関係、国家安全保障に関する脅威の視点から考察することにより、インテリジェンスの真の姿を理解することを目指します。</li> </ul>				
<p>総合到達目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 20世紀、21世紀の国際政治の重要事象について、インテリジェンスの観点から説明できるようになる。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戦前のソ連の対米諜報工作の実態と成果について説明できるようになる。(第4、5回)</li> <li>・ 戦前のソ連の対日諜報工作、革命工作の特徴と成果について説明できるようになる。(第6、7回)</li> <li>・ 戦後日本における日本共産党による暴力革命行動、極左暴力集団や右翼によるテロ活動の背景と特徴について説明できるようになる。(第8、13、14回)</li> <li>・ 戦後日本に対するソ連・ロシア、中国、北朝鮮による諜報工作の特徴と成果について説明できるようになる。(第9、10、11回)</li> <li>・ 1972年の米中復交以来の中国による対米諜報戦略・積極工作の基本戦略について説明できるようになる。(第11回)</li> </ul> </li> <li>■ インテリジェンス事象について、世界の構造に対する歴史的視点、国家安全保障に対する脅威の視点から、考察し説明できるようになる。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共産主義思想の特質、階級国家観を理解した上で、共産主義イデオロギーとその世界革命戦略に基づく諜報活動の特質について説明できるようになる。(第2、3回)</li> <li>・ 自由民主主義と共産主義とを対比して理解した上で、自由民主主義国家に対する共産主義国家の諜報活動の脅威を説明できるようになる。(第3回)</li> <li>・ 米国の例に基づき、秘密保全制度の根幹をなす制度(秘密指定制度、機微区画情報制度、秘密情報へのアクセス、適格性の審査指針、個人背景調査等)について説明できるようになる。(第12回)</li> </ul> </li> </ul>				
<p>成績評価方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 授業参加度及びリアクション・ペーパー14回(70%)：運用ルーブリックC1、E1、I1(評価の観点)当該授業に参加・視聴していることを確認した上で、当該単元の理解度を測ります。また、質問・意見表明における積極性を評価します。 (フィードバック方法)リアクション・ペーパー課題についてのフィードバックは、履修生全員に対しては授業又はClassroom「ストリーム」において、個人に対してはClassroom「授業」において行います。</li> <li>■ 授業内テスト1回(30%)：運用ルーブリックC1、E1、I1(評価の観点)正誤問題により基礎知識の定着度合を確認します。 (フィードバック方法)Classroomで、正誤問題の解答及び解説を配布します。</li> </ul>				
<p>履修条件</p>	<p>特にありません。</p>				
<p>履修上の注意点</p>	<p>本授業は、20世紀の日本史と世界史について全く知識がないと理解が困難です。従って、高校の日本史教科書(明治維新以降)と世界史教科書(19世紀以降)の部分をしっかり読み直しておくことを勧めます。高校の教科書を持っていない人は、中学生の歴史の復習でも結構です。</p> <p>次の人物を知らない人は、どのような人物か調べておくこと：レーニン、スターリン、トロツキー、フランクリン・ローズベルト、リヒャルト・ゾルゲ、尾崎秀実、キム・フィルビー、片山潜、徳田球一、宮本顕治、毛沢東、リチャード・ニクソン、鄧小平。また、5・15事件と2・26事件を知らない人は、どのような事件か調べておくこと。</p>				
<p>授業内容</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">回</th> <th style="width: 95%;">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: top;">1</td> <td>                     ①授業テーマ 導入、インテリジェンスの常識                      ②授業概要 授業の主題、内容、構成、成績評価方法について説明を行います。 担当教員の実務経験を踏まえて、実務家が考えるインテリジェンスの常識を講義します。それを理解した上で、孫子の『彼を知り己を知れば、百戦殆うからず』のインテリジェンス的意味、民主主義国家におけるインテリジェンス機関構成の論理を説明できるようになる。(C1・E1・I1)                      ③予習(120分)                 </td> </tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ 導入、インテリジェンスの常識 ②授業概要 授業の主題、内容、構成、成績評価方法について説明を行います。 担当教員の実務経験を踏まえて、実務家が考えるインテリジェンスの常識を講義します。それを理解した上で、孫子の『彼を知り己を知れば、百戦殆うからず』のインテリジェンス的意味、民主主義国家におけるインテリジェンス機関構成の論理を説明できるようになる。(C1・E1・I1) ③予習(120分)
回	内容				
1	①授業テーマ 導入、インテリジェンスの常識 ②授業概要 授業の主題、内容、構成、成績評価方法について説明を行います。 担当教員の実務経験を踏まえて、実務家が考えるインテリジェンスの常識を講義します。それを理解した上で、孫子の『彼を知り己を知れば、百戦殆うからず』のインテリジェンス的意味、民主主義国家におけるインテリジェンス機関構成の論理を説明できるようになる。(C1・E1・I1) ③予習(120分)				

	<p>Classroom「授業」に掲示する「講義動画」を視聴して、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。</p> <p>④復習（120分） 配布資料を再読して授業を振り返り、インテリジェンスの定義、インテリジェンスの常識、基本的なインテリジェンス組織、その他講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。</p>
2	<p>①授業テーマ 世界の構造、セキュリティ・サービス</p> <p>②授業概要 20世紀から21世紀における「世界の構造」の変遷を理解し、その変遷と関連付けて、日本を取り巻くインテリジェンス事象と国家安全保障上の脅威の変遷を説明できるようになる。また、関連して、セキュリティ・サービスの基本任務を説明できるようになる。（C1・E1・I1） 担当教員の実務経験を踏まえて、セキュリティ・サービスとは何か等について講義します。</p> <p>③予習（120分） Classroom「授業」に掲示する「講義動画」を視聴して、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。</p> <p>④復習（120分） 配布資料を再読して授業を振り返り、帝国主義の時代・戦間期・第二次世界大戦後の世界構造の変化、近代民主主義国家のイデオロギー、セキュリティ・サービスの任務、その他講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。 参考書：平野聡『「反日」中国の文明史』、小野寺史郎『中国のナショナリズム』</p>
3	<p>①授業テーマ 自由民主主義と共産主義のイデオロギーと諜報活動</p> <p>②授業概要 自由民主主義との対比において共産主義イデオロギーの特質、階級国家観を理解した上で、共産主義イデオロギーの諜報活動に対する姿勢、世界革命戦略について説明できるようになる。（C1・E1・I1） 担当教員の実務経験を踏まえて、共産主義イデオロギーと諜報活動の関係について重点的に講義します。</p> <p>③予習（120分） Classroom「授業」に掲示する「講義動画」を視聴して、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。</p> <p>④復習（120分） 配布資料を再読して授業を振り返り、自由民主主義イデオロギーと共産主義イデオロギーの特徴、共産主義イデオロギーから生じる諜報活動についての基本姿勢、コミンテルンによる革命の輸出、その他講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。 参考書：レーニン『国家と革命』他</p>
4	<p>①授業テーマ 「ヴェノナ」（1）：ソ連暗号の解読とソ連諜報網</p> <p>②授業概要 米国よるソ連暗号解読作戦「ヴェノナ」（1940年代以降）を理解することにより、ソ連が米国内に構築したスパイ網の特徴と規模及びソ連の諜報工作に対する米国共産党の役割を説明できるようになる。併せて、シギント機関とFBIの協力関係を説明できるようになる。（C1・E1・I1）</p> <p>③予習（120分） Classroom「授業」に掲示する「講義動画」を視聴して、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。</p> <p>④復習（120分） 配布資料を再読して授業を振り返り、「ヴェノナ」作戦によるソ連暗号解読成功の要因、暗号解読により判明した米国内のソ連スパイの状況、米国共産党によるソ連諜報活動への協力、「雪」作戦の概要、その他講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。 参考書：ジョン・アール・ヘインズ他『ヴェノナ』、江崎道朗『アメリカ側から見た東京裁判史観の虚妄』他</p>
5	<p>①授業テーマ 「ヴェノナ」（2）：「マンハッタン計画」他ソ連諜報工作の成功例</p> <p>②授業概要 「ヴェノナ」作戦によって解明されたソ連諜報工作の成功事例～「マンハッタン計画」その他科学技術情報の入手、「トロツキー暗殺」、「ケンブリッジ5」の活躍など～を理解することにより、ソ連の諜報活動が第二次世界大戦後の世界秩序形成に与えた</p>

	<p>影響及び「ヴェノナ」の解読成功が米国の戦後政策に与えた影響を説明できるようになる。(C1・E1・I1)</p> <p>③予習 (120分) Classroom「授業」に掲示する「講義動画」を視聴して、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。</p> <p>④復習 (120分) 配布資料を再読して授業を振り返り、「マンハッタン計画」その他科学技術情報の取得、「トロツキー暗殺」などソ連諜報活動の成果、その他講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。 参考書：ジョン・アール・ヘインズ他『ヴェノナ』、ベン・マッキンタイアー『キム・フィルビー』他</p>
6	<p>①授業テーマ ゾルゲ事件とソ連の対日諜報工作</p> <p>②授業概要 戦前日本における一大諜報事件であるゾルゲ事件の顛末を理解することにより、戦前におけるソ連の対日諜報戦略、尾崎秀実の果たした役割、戦前日本の防諜対策の骨子について説明できるようになる。(C1・E1・I1)</p> <p>③予習 (120分) Classroom「授業」に掲示する「講義動画」を視聴して、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。</p> <p>④復習 (120分) 配布資料を再読して授業を振り返り、ゾルゲ諜報団主要人物の活動、ゾルゲ諜報団による対日情報収集や積極工作における成果、諜報活動の背景にある世界歴史の進展に関する認識、米国共産党の役割、特別高等警察による諜報対策、その他講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。 参考書：加藤哲郎『ゾルゲ事件』他</p>
7	<p>①授業テーマ 「リンチ殺人事件」と戦前の共産党</p> <p>②授業概要 戦前の日本共産党の誕生・発展・壊滅の経緯を理解した上で、コミンテルン世界共産党との関係(資金、人材、運動方針面での指導支援)、共産党の組織的特徴(民主集中制とコミンテルン路線への盲従)、特別高等警察による対策の基本について説明できるようになる。(C1・E1・I1)</p> <p>③予習 (120分) Classroom「授業」に掲示する「講義動画」を視聴して、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。</p> <p>④復習 (120分) 配布資料を再読して授業を振り返り、戦前の日本共産党の誕生から壊滅に至る歴史の中で、コミンテルンによる指導支援の特徴、特別高等警察による対策の要点、その他講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。 参考書：立花隆『日本共産党の研究』(上、中、下)他</p>
8	<p>①授業テーマ 「白鳥警部殺人事件」と戦後共産党</p> <p>②授業概要 戦後の日本共産党の再建、1950年代の武装闘争の顛末を理解して、武装闘争に対する朝鮮戦争などの世界情勢の影響、ソ連共産党や中国共産党の思惑、両党による指導支援の内容、及び武装闘争に対する治安当局の対応の基本について説明できるようになる。(C1・E1・I1)</p> <p>③予習 (120分) Classroom「授業」に掲示する「講義動画」を視聴して、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。</p> <p>④復習 (120分) 配布資料を再読して授業を振り返り、日本共産党に対するスターリンやなどソ中共産党の指導、日本共産党の武装闘争の実態、朝鮮戦争との関係、その他講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。 参考書：兵本達吉『日本共産党の戦後秘史』他</p>
9	<p>①授業テーマ ソ連による戦後の対日諜報工作</p> <p>②授業概要 ソ連による第二次大戦後の主要な対日工作事案を概観した上で、その背景にある諜報戦略、諜報組織・活動と日本警察の対応を理解する。その上で、ソ連の国家戦略と関係付けて、その対外諜報工作を説明できるようになる。(C1・E1・I1)</p> <p>③予習 (120分)</p>

	<p>Classroom「授業」に掲示する「講義動画」を視聴して、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。</p> <p>④復習（120分） 配布資料を再読して授業を振り返り、ソ連による対日諜報の背景にある戦略、諜報組織・活動の特徴、その他講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。 参考書：レフチェンコ『KGBの見た日本』、名越健郎『クレムリン秘密文書は語る』他</p>
10	<p>①授業テーマ 北朝鮮による諜報戦略と対日工作</p> <p>②授業概要 北朝鮮が敢行した（日本人拉致を含む）主な諜報工作事案を概観した上で、その背景にある北朝鮮の国家戦略と革命戦略、対日諜報事案と日本警察の対応を理解する。その上で、北朝鮮の国家戦略と関係付けて、その対外諜報工作进行を説明できるようになる。（C1・E1・I1）</p> <p>③予習（120分） Classroom「授業」に掲示する「講義動画」を視聴して、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。</p> <p>④復習（120分） 配布資料を再読して授業を振り返り、北朝鮮の諜報工作事案の背景にある、北朝鮮の革命戦略、対南工作の要点、対日工作の要点、その他講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。 参考書：金賢姫『いま、女として』（上、下）、韓光(ハングァン)熙(ヒ)『わが朝鮮総連の罪と罰』、佐々淳行『金日成閣下の無線機』、全富億『北朝鮮の女スパイ』他</p>
11	<p>①授業テーマ 中国による対外諜報と対米政略・工作</p> <p>②授業概要 中国共産党による諜報活動は、「孫子」の兵法など中国伝統の基礎の上に広汎な政略・政治工作を行う点に特徴が見られる。そこで、過去半世紀に亘る対米・対日諜報工作の具体例を概観した上で、主としてマイケル・ビルズベリー『China2049』を素材として、1972年の米中復交以降の対米政略とこれを支えた個別の諜報活動を概観することにより、中国の諜報活動の特色とその国家戦略における諜報活動の役割を説明できるようになる。（C1・E1・I1）</p> <p>③予習（120分） Classroom「授業」に掲示する「講義動画」を視聴して、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。</p> <p>④復習（120分） 配布資料を再読して授業を振り返り、毛沢東以来の中国共産党の世界戦略、対米諜報・政略の要点、対日諜報の要点、中国の諜報活動の特色、その他講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。 参考書：マイケル・ビルズベリー『China2049』、デイヴィッド・ワイズ『中国スパイ秘録』、袁翔鳴『蠢く！中国「対日特務工作」<sup>秘</sup>ファイル』他</p>
12	<p>①授業テーマ 「秘密保全制度」</p> <p>②授業概要 日米の秘密保全に係わる全制度の概要について理解した上で、米国の秘密保全制度の根幹をなす仕組（秘密指定制度、機微区画情報制度、秘密情報へのアクセス要件、適格性の審査指針、個人背景調査）の骨格について説明できるようになる。更に、米国との対比において、日本の秘密保全制度の課題について指摘できるようになる。（C1・E1・I1）</p> <p>担当教員の実務経験を踏まえて、秘密保全を有効に機能させるための広義の秘密保全制度の全体像を講義します。</p> <p>③予習（120分） Classroom「授業」に掲示する「講義動画」を視聴して、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。</p> <p>④復習（120分） 配布資料を再読して授業を振り返り、米国の処罰法令の特徴、秘密指定制度、機微区画情報制度、秘密保全部署、保全検査（セキュリティ・クリアランス）、個人背景調査の実態、その他講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。</p>
13	<p>①授業テーマ 「極左暴力集団」</p> <p>②授業概要 あさま山荘事件、三菱重工爆破事件、よど号ハイジャック事件、テルアビブ空港乱射</p>

	<p>事件などの諸事件を契機として、我が国の極左暴力集団の全体像を理解する。その上で、我が国の極左暴力集団の誕生、思想的特徴、国家安全保障に対する脅威について説明できるようになる。(C1・E1・I1)</p> <p>③予習 (120分) Classroom「授業」に掲示する「講義動画」を視聴して、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。</p> <p>④復習 (120分) 配布資料を再読して授業を振り返り、極左暴力集団の誕生とその思想的特徴、極左暴力集団各派の起源、違法行為の種類、その他講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。 参考書：読売新聞社会部『連合赤軍』、野村旗守『Zの研究』</p>
14	<p>①授業テーマ 「右翼によるテロ、クーデタ」</p> <p>②授業概要 戦後の主な右翼事件である浅沼社会党委員長殺害事件、三無事件、金丸自民党副総裁殺人未遂事件等を契機にして、我が国の右翼運動の全体像を理解する。その上で、我が国の右翼運動の特徴と国家安全保障に対する右翼の脅威について説明できるようになる。(C1・E1・I1)</p> <p>③予習 (120分) Classroom「授業」に掲示する「講義動画」を視聴して、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。</p> <p>④復習 (120分) 配布資料を再読して授業を振り返り、我が国の右翼運動の起源、戦前の国家革新運動、「本流右翼」「新右翼」「街宣右翼」の特徴、右翼運動による我が国の国家安全保障に対する脅威、その他講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。 参考書：天道是『右翼運動100年の軌跡』他</p>
15	<p>①授業テーマ 総括</p> <p>②授業概要 半年間の授業を総括します。授業内テストを実施します。内容は正誤問題と論述問題とします。(C1・E1・I1)</p> <p>③予習 (120分) 授業での配布資料と講義ノートの全体を読み直す。</p> <p>④復習 (120分) ポータルで配信する正誤問題の正解と自分の解答を対比して誤りがあれば、授業配布資料と対比して理解の誤りを正す。</p>
関連科目	<p>インテリジェンス論2 (RMGT3534) と密接に関連する。 その他、インテリジェンス概論 (RMGT1305)、社会安全政策論 (RMGT3521) テロ対策論 (RMGT3528)、安全保障論1 (国際安全保障) (RMGT3551)、比較宗教・文化論 (RMGT3553)、安全保障論2 (国家安全保障) (RMGT3554)、ストラテジー (RMGT3555)、外交史 (RMGT3556)、国際テロリズム論 (RMGT3558) とも関連する。</p>
教科書	<p>特になし。事前にパワーポイント資料をウェブ配信します。</p>
参考書・参考URL	<p>(下記の参考書は、概ね図書館に収蔵されている。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ジョン・アール・ヘインズ、ハーヴェイ・クレア『ヴェノナ』(PHP研究所、2010年)</li> <li>・ 中西輝政『日本人としてこれだけは知っておきたいこと』(PHP新書、2006年)</li> <li>・ 江崎道朗『アメリカ側から見た東京裁判史観の虚妄』(祥伝社新書、2016年)</li> <li>・ レーニン『国家と革命』(各種文庫)</li> <li>・ ベン・マッキンタイア『キム・フィルビー』(中央公論新社、2015年)</li> <li>・ 加藤哲郎『ゾルゲ事件』(平凡社、2014年)</li> <li>・ チャルマーズ・ジョンソン『ゾルゲ事件とは何か』(岩波現代文庫、2013)</li> <li>・ 立花隆『日本共産党の研究』(上、中、下)(講談社文庫、1983年)</li> <li>・ 小林俊一・鈴木隆一『昭和史最大のスパイ・M』(ワック、2006年)</li> <li>・ 小林俊一・加藤昭『闇の男 野坂参三の百年』(文藝春秋、1993年)</li> <li>・ 兵本達吉『日本共産党の戦後秘史』(新潮文庫、2008年)</li> <li>・ 袴田里見『私の戦後史』(朝日新聞社、1978年)</li> <li>・ 治安問題研究会『新・日本共産党101問』(立花書房、2012年)</li> <li>・ 警察庁警備局『スパイの実態』(1984年)</li> <li>・ レフチェンコ『KGBの見た日本』(日本リーダーズダイジェスト社、1984年)</li> <li>・ 佐々淳行『私を通り過ぎたスパイ達』(文藝春秋、2016年)</li> <li>・ 佐々淳行『金日成閣下の無線機』(読売新聞社、1992年)</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名越健郎『クレムリン秘密文書は語る』（中公新書、1994年）</li> <li>・コワレンコ『対日工作の回想』（文藝春秋、1996年）</li> <li>・金東赫『金日成の秘密教示』（産経新聞社、2004年）</li> <li>・西岡力『韓国分裂』（扶桑社、2005年）</li> <li>・全富億『北朝鮮の女スパイ』（講談社、1994年）</li> <li>・金賢姫『いま、女として』（上、下）（文藝春秋、1991年）</li> <li>・張龍雲『朝鮮総連工作員』（小学館文庫、1999年）</li> <li>・韓光(ハングァン)熙(ヒ)『わが朝鮮総連の罪と罰』（文藝春秋、2002年）</li> <li>・平野聡『「反日」中国の文明史』（ちくま新書、2014年）</li> <li>・小野寺史郎『中国のナショナリズム』（中公新書、2017年）</li> <li>・デイヴィッド・ワイズ『中国スパイ秘録』（原書房、2012年）</li> <li>・柏原竜一『中国の情報機関』（祥伝社新書、2013年）</li> <li>・ニコラス・エフティミアデス『中国情報部』（早川書房、1994年）</li> <li>・マイケル・ピルズベリー『China2049』（日経B P社、2015年）</li> <li>・遠藤誉『毛沢東 日本軍と共謀した男』（新潮新書、2015年）</li> <li>・袁翔鳴『蠢く！中国「対日特務工作」<sup>※</sup>ファイル』（小学館、2007年）</li> <li>・社会運動研究会『増補改訂 極左暴力集団』（1986年）</li> <li>・田代則春『過激派集団の理論と実践』（立花書房、1985年）</li> <li>・読売新聞社会部『連合赤軍』（潮出版社、1972年）</li> <li>・野村旗守『Zの研究』（月曜評論社、2003年）</li> <li>・右翼問題研究会『右翼の潮流』（立花書房、2006年）</li> <li>・猪野健治『日本の右翼』（ちくま文庫、2005年）</li> <li>・天道是『右翼運動100年の軌跡』（立花書房、1992年）</li> </ul>
連絡先・オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 連絡先 開講時に告知します。</li> <li>■ オフィスアワー 水曜3限。それ以外の時間については、メール等で事前にアポイントをとることにより研究室で対応します。</li> </ul>
研究比率	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 危機管理領域との対応 災害マネジメント0%；パブリックセキュリティ40%；グローバルセキュリティ40%； 情報セキュリティ20%</li> <li>■ 危機管理と法学のバランス 危機管理学95%；法学5%</li> </ul>

